Innovation in Motion TSUBAKI

つばき　取扱説明書

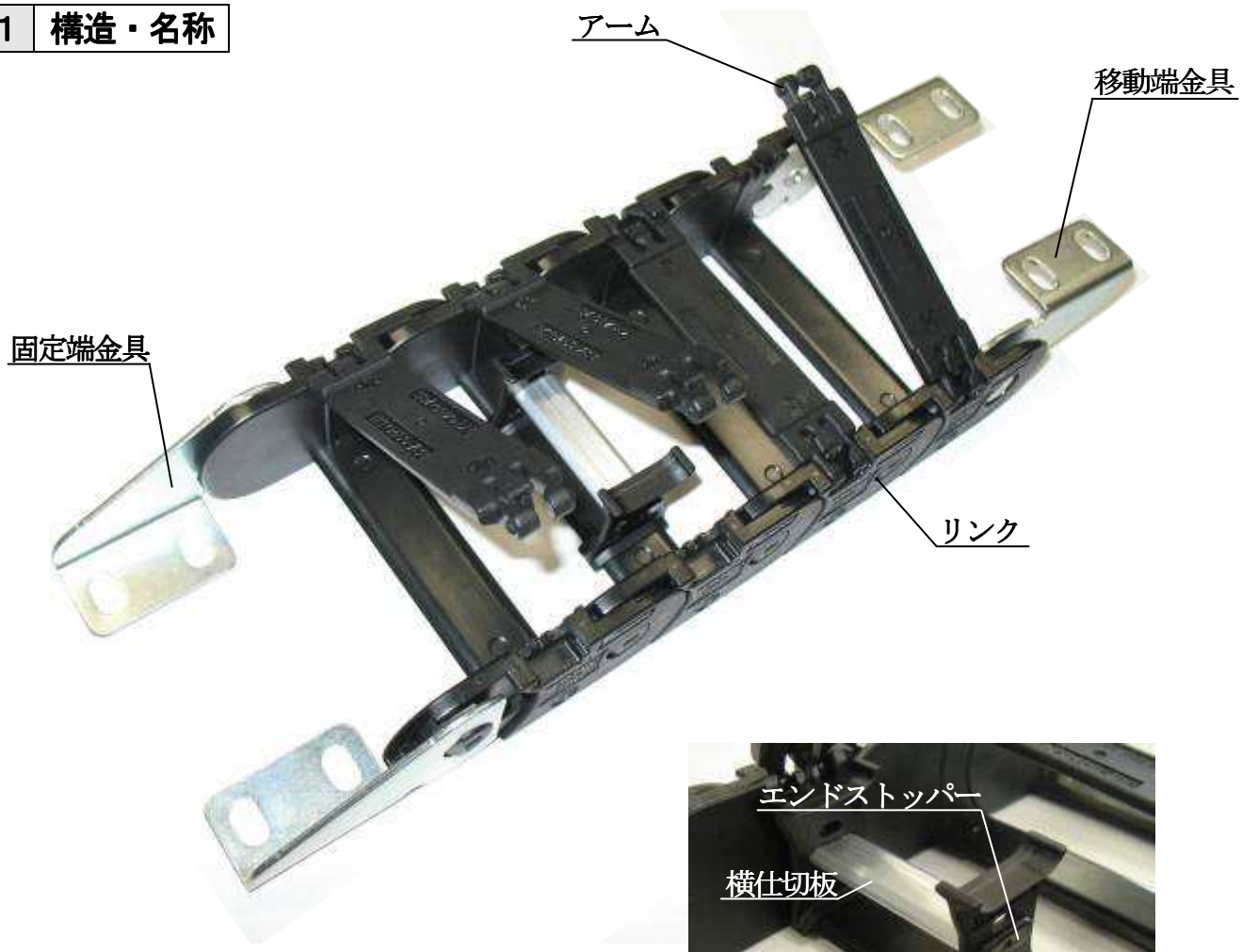
ケーブルベヤ®

TKP45H25 ・ TKP58H39

（旧 TKP0450）　（旧 TKP0580）

（注）作業の際には適切な保護具（安全眼鏡、手袋、安全靴など）を着用してください。

1 構造・名称



2 使用する工具

- マイナスドライバ（先端幅 6mm 程度）
- 保護具（安全眼鏡、手袋、安全靴など）
- プラハンマー

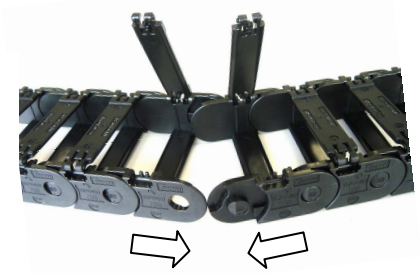
3 作業をする前に

ご注文いただいたものと間違いがないか、また、運搬時の破損がないか確認してください。
作業時は作業に適した服装、適切な保護具（安全眼鏡、手袋、安全靴など）を着用してください。
次の部品は部品送りといたしますので取付時に組み込み願います。

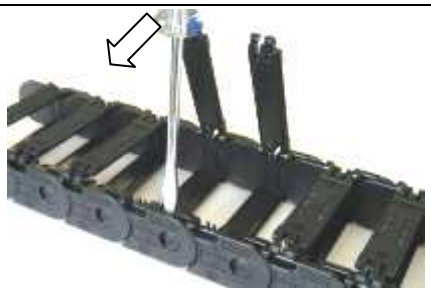
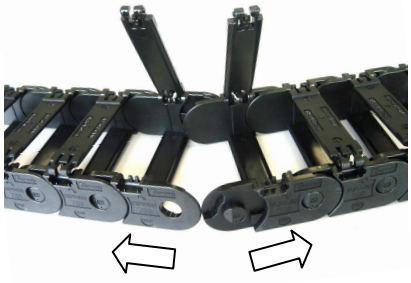
- 移動端金具、固定端金具
- 縦仕切板
- 多段仕切セット

4 連　結

「つばきプラケーブルベヤ®」は梱包、輸送の都合上、所定の長さに分割納入しています。以下の手順にしたがって、必要な長さに連結してご使用ください。尚、連結の際は、アームを開いてください。

		
1）方向をそろえる	2）リンク部を重ね、次に一方のピンを穴に挿入。	3）他方を押し込む。

5 分　割

 ここで分割		
1） 分割は、アームを 2 ヶ開いてから行なってください。	2） リンクの間のスキマ（図参照）にマイナスドライバを差し込み、ドライバを手前に倒して、ピンを穴から外します。	3） 他方のピンを支点にしてケーブルベヤを「く」の字形に曲げると外れます。

6 仕切板の取付方法

縦仕切板、多段仕切セット（ＤＳＡ及びＤＳＢタイプ）は、ケーブル・ホース挿入時に取付けます。
注）仕切板、多段仕切セットは、２リンク毎に取付けるため、１ヵ所に入る数量を確認してください。

1） 縦仕切板の取付

リンク本体に取付けます。「カチッ」と音がすれば確実に固定されています。

＊縦仕切板は
上下対称形です。

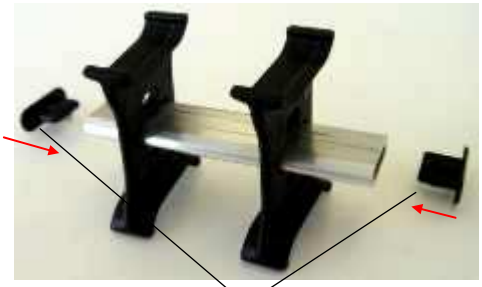
ＤＳＡセット状態

※TKP45H25は中央の孔のみ可能

2） 多段仕切（DSA ﾀｲﾌﾟ）の取付

① 縦仕切板の孔に、横仕切板を通します。
＊ 縦仕切板は２ケ以上必要

② 上記１セットでリンク本体に取付けます。
＊ ケーブル・ホース両端のコネクターが仕切り空間よりも大きい場合はケーブル・ホースを先に配置してください。
＊ 横仕切板の切断面で手を切らないように注意してください。
＊ ケーブル・ホースがまっすぐになるように縦仕切板の位相を合わせてください。



ＤＳＢセット状態

＊TKP45H25は中央の孔のみ可能

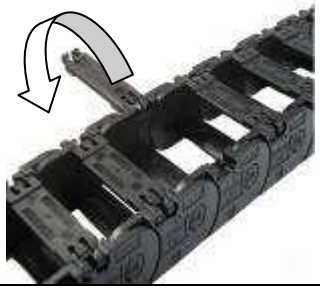
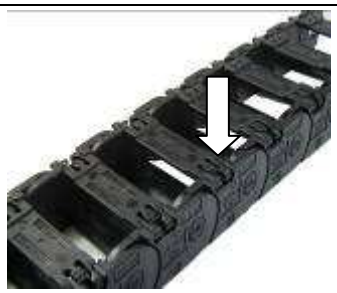
3） 多段仕切（DSB ﾀｲﾌﾟ）の取付

① 縦仕切板の孔に、横仕切板を通します。
＊ 縦仕切板は２ケ以上必要

② 横仕切板の両端の孔にエンドストッパを組込みます。

③ 上記１セットでリンク本体に取付けます。
＊ ケーブル・ホース両端のコネクターが仕切り空間よりも大きい場合はケーブル・ホースを先に配置してください。
＊ 横仕切板の切断面で手を切らないように注意してください。
＊ ケーブル・ホースがまっすぐになるように縦仕切板の位相を合わせてください。
＊ エンドストッパの紛失に注意してください。

7 ケーブル・ホースの挿入・アームの閉め方

		
1） アームを起こしてケーブル・ホースのねじれをとり、挿入してください。 ※ ケーブル･ホース挿入の詳細は下記「ケーブル・ホースの配線について」を参照してください。	※ アームを 180 度回転させると、リンクから外れ易くなるので注意してください。リンクから外れた場合､アームの表裏を確認してからリンクに挿入してください。（刻印のある方が外側です。）	2） アーム端部を「カチッ」と音がするまで手で押さえるかプラハンマーでたたいてください。

●ケーブル・ホースの配線について

1) ケーブル・ホースは、柔軟性に富み、繰り返し屈曲性・耐摩耗性に優れた移動用のものを使用してください。

2) ケーブル・ホースはねじれのないように、配線してください。ドラムやコイルからスパイラル状に引き出すと、ケーブル・ホースがねじれた状態で配線されますので、行わないでください。（図 1 参照）
ケーブル･ホースは、直線状態でケーブルベヤ内にはいるようにしてください。（図 2 参照）

3) ケーブル・ホースの必要長さ
ケーブルの長さは通常
（ピッチ×リンク数）＋取付部長さ＝ケーブル必要長さ
とするのが適当です。
ホース使用の場合は使用時に圧力により長さが変化するので
｛(ピッチ×リンク数）＋取付部長さ｝×1.015＝ホース必要長さ
とするのが適当です。なお、係数 1.015 はホースの収縮を見込んだ値ですが、ホースの種類によって異なりますので、ホースメーカに確認してください。

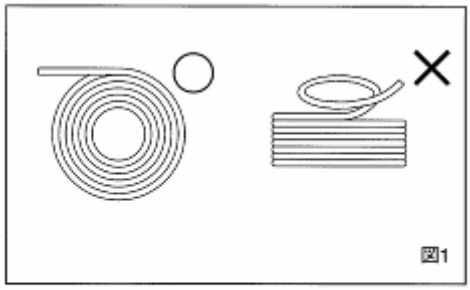
4) ケーブル･ホースは屈曲部で引張り勝手やケーブルベヤ外周面に押し付けた状態にならないよう、緩ませ気味（ケーブルベヤ内周面より浮き上がり）に、自由に動けるように配線してください。（図 3・4 参照）

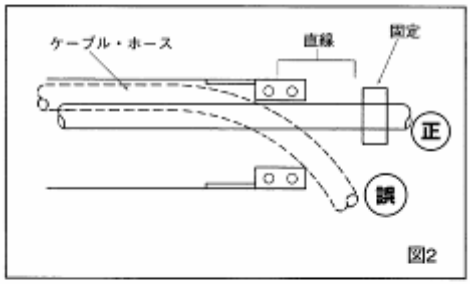
5) ケーブル・ホースに不要な張力が作用しないように、ケーブルベヤ内での長さを保つために移動端および固定端で固定（クランプ）してください。（図 4 参照）
なお、ケーブル・ホースをケーブルベヤ内では固定しないでください。

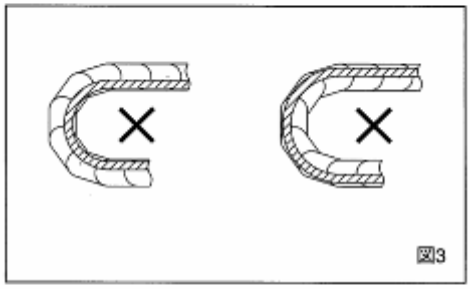
6) ケーブル・ホースを多段に仕切る場合、ケーブル・ホースの長さは、内外周では同一ではありません。それぞれのケーブル・ホースの中心ライン上で必要長さを求めてください。

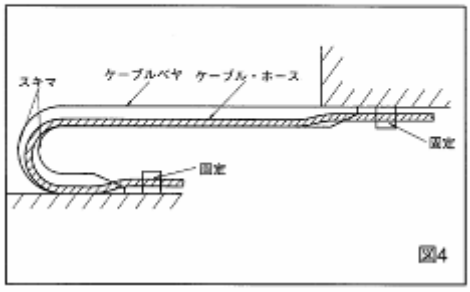
7) ケーブル・ホースは横一列に配列し、積み重ねないでください。仕切板を取付けられるタイプでは、仕切板によりケーブル・ホースを整頓してください。
ただし、ケーブル・ホースを多段に仕切ると、ケーブル・ホースが摺動し､摩耗しやすくなりますので､横一列に並べることをおすすめします。

8) ケーブル・ホースを多段に仕切る場合、ケーブル・ホースの長さは、内外周では同一ではありません。それぞれのケーブル・ホースの中心ライン上で必要長さを求めてください。

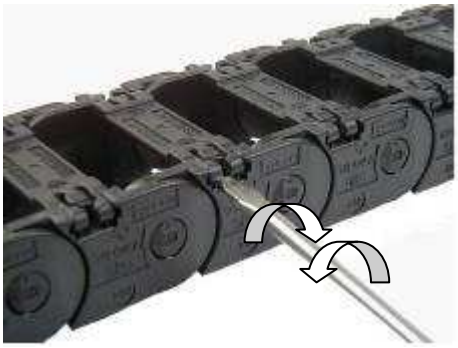






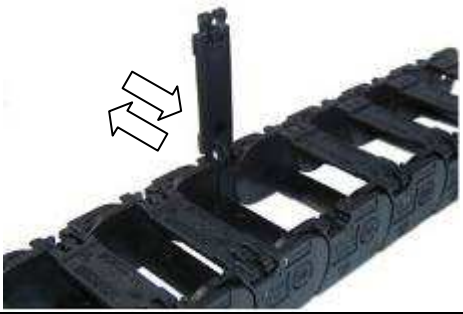


8 アームの開け方



1） アーム端部とリンクのスキマにマイナスドライバを差し込み、ドライバを左右に回転させて、アームを開けます。

※ **ドライバは先端幅6ｍｍ程度のものを使用してください。**



2） アームは90度起こした状態で、横方向の移動（矢印）により、取外し・挿入ができます。

※ アームを取外した場合、アームの表裏を確認してからリンクに挿入してください。（刻印のある方が外側です。）

■ TKP45H25 のアーム開閉方向について

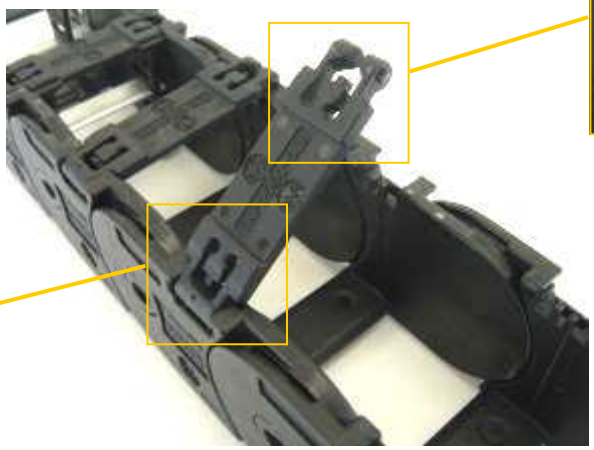
アームはリンクのどちら側でも開閉可能です。

■ TKP58H39 のアーム開閉方向について

アームは先端にスキマがある方で開閉してください。（下図参照）

アームの取付方向を変更することで、開閉方向を変更することができます。

開閉側拡大

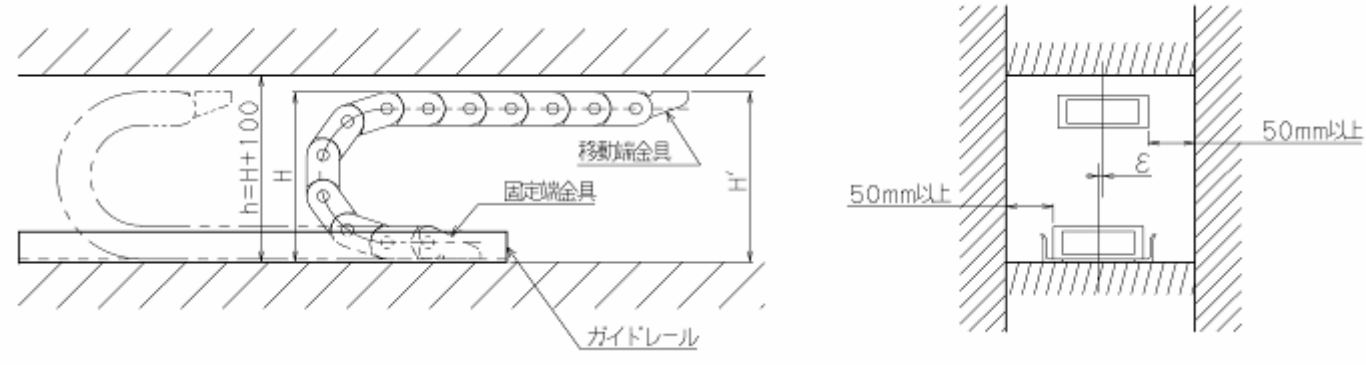


ヒンジ側拡大

(固定)

９　据付・保守

ケーブルベヤには、ご使用によっては、フリースパン部にふくらみやたわみがあらわれますが、当社能力線図内で選定されている場合は、使用上問題ありません。



1．機械装置の移動端取付高さ（H'）は、ケーブルベヤの高さ　H＋（10～30）　としてください。
2．ケーブルベヤの空間高さ（h）は、H＋100　としてください。
3．ガイドレールを取付けてください。
4．移動端金具と固定端金具の取付面誤差（ε）は、下表の範囲内にしてください。

形式	取付面誤差（ε）
ＴＫＰ４５Ｈ２５	４mm以下
ＴＫＰ５８Ｈ３９	６mm以下

5．ケーブルベヤの移動端側、固定端側を確認してください。
6．ワイヤーブレード被覆のものは、摺動によりケーブルベヤとワイヤーブレードの双方が傷みますので、使用しないでください。
7．ガイドレール内に異物があると、破損の原因になりますので取除いてください。

※ 詳細はケーブルベヤカタログを参照してください。

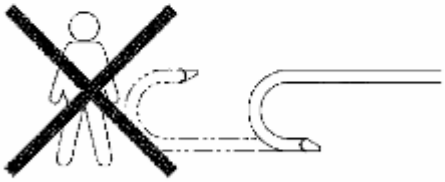
安全にご使用いただくために

⚠警　告　危険防止のため、下記の事項に従ってください。

●ケーブルベヤは、本来の用途以外には使用しないでください。
●ケーブルベヤの上には絶対に乗らないでください。破損して落下する可能性があります。

●労働安全衛生規則第２編第１章第１節一般基準を遵守してください。

●ケーブルベヤの連結、取付け、取外し、保守点検などの際には、
・ケーブルベヤおよび部品が自由に動かないように固定してください。ケーブルベヤは自重により自走したり、倒れたりする可能性があります。



・ケーブルベヤの屈曲部で手を挟まないようにご注意ください。
・作業に適した服装、適切な保護具（安全眼鏡、手袋、安全靴など）を着用してください。
・事前に必ず装置の元電源を切り、また不意にスイッチが入らないようにしてください。
・取扱説明書、カタログまたはお客様に対して特別に提出された文書に従って作業してください。
・ケーブルベヤの取扱いは、作業に熟練した方が行ってください。

⚠注　意　事故防止のため、下記の事項を守ってください。

●ケーブルベヤの構造、仕様を理解したうえで取扱ってください。
●ケーブルベヤを据付ける際には、事前に運搬時の破損がないか検査してください。
●ケーブルベヤは必ず定期的に保守点検をしてください。

No.CV-MT07-001　　2012 年 10 月 1 日発行 ©株式会社　椿本チエイン